



拠点校：高知市立旭中学校

「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを推進するとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を実施しています。高知市の中学校社会科の拠点校である旭中学校の第1回教材研究会（10月11日実施）、第2回授業研究会（11月16日実施）における本単元の学びの様子を紹介します。

単元名 地理的分野 日本の諸地域 ～関東地方～

単元目標

- 関東地方について、「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生じる課題を理解する。【知識及び技能】
- 関東地方において、「人口や都市・村落」を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生じる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。【思考力、判断力、表現力等】
- 関東地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

学習指導要領解説 p.64～71

ゴールの子供の姿

関東地方は、自然環境や産業、交通、歴史等といったさまざまな背景によって、人口が集中し、そのことによりさまざまな都市問題が生じていることを理解している。
関東地方における人口問題の原因について、人口集中による影響や他地域間や地域内の人口移動などに着目して、考察し、表現している。
関東地方の人口集中は、一方で地方の衰退を招いており、過密・過疎の問題は互いに関連付けて考える必要があることを理解している。

授業改善のポイント

- **地理的な見方・考え方を繰り返し働かせ、思考力、判断力、表現力等の育成を図る単元づくり**
「日本の諸地域」の学習を通して、見方・考え方を働かせた考察、説明、議論等の学習活動を組み込み、課題を解決していく学習過程となるような単元計画をする。
- **生徒が主体的に課題を追究したり解決したりする活動の充実**
社会との関わりを意識して、地域における課題を見だし、見通しを持って他者と協働的に追究しながら解決する学習活動を設定する。

指導上の課題

- ① 地理的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成を図ることが不十分で、生徒に既習の見方・考え方や概念等の知識を主体的に活用させることができていない。
- ② 日本の様々な地域の問題について、生徒に自分事として主体的に取り組ませる手立てが不十分である。

教材研究会 10月11日（水）

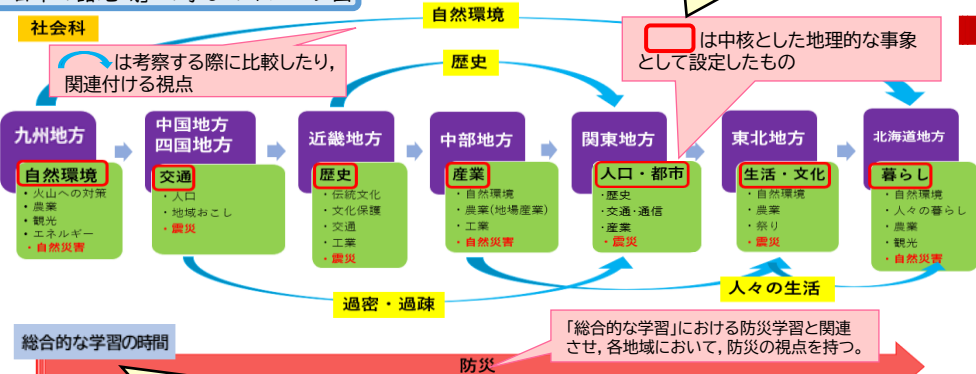
授業改善のポイントを踏まえた、旭中学校の提案

計画的に見方・考え方を働かせる構想

「日本の諸地域」の学習を通して系統性に着目し、既習の地域の学習を参考にさせたり、比較させたりする等して、見方・考え方を繰り返し働かせながら概念的知識の定着や多面的・多角的に物事を見る力を付けさせる。そのために**関連する視点をモデル図に表すことで明確にし、授業を行いながら、修正をしていく。**

中核とする考察の仕方の再考
各地域の学習において、何を「中核とした考察の仕方」にするかを再考し、設定する。
(本単元「関東地方」は「人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」で計画する。)

「日本の諸地域」の学びのイメージ図



教科横断的な視点

「豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科横断的な視点で育成していくことができるよう」(中学校学習指導要領解説総編p.53) 社会科として地域ごとに防災と関連付けて単元構想をしていく。

単元構想

単元を貫く課題 関東地方の過密問題を解決するためには、どのようにしたらよいのだろうか。

課題把握

1 関東地方にはどのような特色があるのだろうか。

課題追究

- 2 なぜ東京大都市圏に人口が集中しているのだろうか。
- 3 首都直下型の地震が起きたら、生活に必要なものの供給は、どうなるのだろうか。
- 4 あなた(の家族)が東京に転動になったら、住むのは都心と郊外のどちらを選択するだろうか。

課題解決・新たな課題

本時

- 5 関東地方の過密問題を解決するためにはどのようにしたらよいのだろうか。
- 6 帰宅難民を解消するにはどのようにすればよいのだろうか。(パフォーマンス課題)

参考：草原和博・大坂遊編著『学びの意味を追究した中学校地理の単元デザイン』明治図書

協議より

- ・ 過密問題に限定せず、人口問題として大きく捉えるというのではないか。
- ・ 第2～4時の学習課題は第5時の構想に向けた学習課題としては不十分。
- ・ 「過密問題を解決するためには」を問うと「地域分散型」に偏り、多様な意見が出にくいのではないか。
- ・ 何を根拠に判断するのか、単元を通して資料の活用がポイントになる。



○ 単元構想の見直し

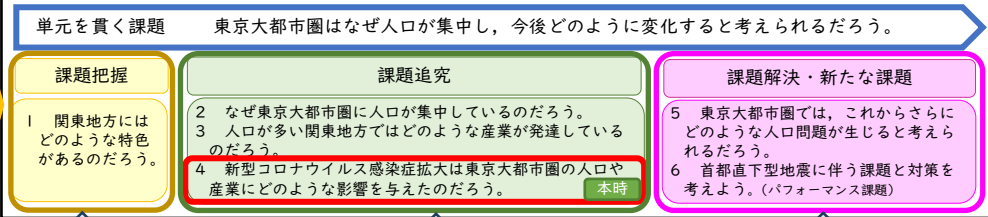
関東地方の人口集中による影響や他地域間・地域内の人口移動や偏在に着目し、人口問題の原因を考察させることで、解決を図るために参考にすべきことや重要なことについて追究させる。

○ 本時の学習活動の見直し

新型コロナウイルス感染症拡大による影響について、資料を基に考察することを通して、人口と産業の関連に気付かせる学習活動にする。

教材研究会を受けて

- 単元構想の見直し
→**考察型の単元へ**
- 本時の学習活動の見直し
→**人口問題について産業と関連付けて考察する活動へ**



関東地方を概観し、自然環境等の理解から人口集中との関係に着目させる。
東京都都市圏の拡大と産業の発達について、交通の発達等と関連付けて追究させる。
拡大を続ける東京都都市圏が抱える未来の人口問題について考え、我が国全体の人口問題として捉える。



Point① 課題に関する考察(追究)を重視する学習の設定

資料から読み取った情報を基にして社会的現象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力を育成することが大切です。(中学校学習指導要領解説社会編 p.6)

本時では
新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、東京都都市圏の人の移動や経済活動の変化について、人口と産業を関連付けて多面的・多角的に考察させ、社会の変化に対応する力の育成を図る。

Point② 見方・考え方を意図的に働かせる学習活動の設定

「深い学びの実現のためには、『**社会的な見方・考え方**』を用いた考察、構想や説明、議論等の学習活動が組み込まれた課題を追究したり解決したりする活動」が重要です。(中学校学習指導要領解説社会編 P.15)

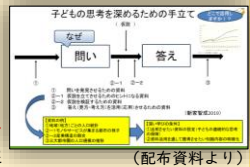
本単元では
これまでの学習で習得した人口集中地域の自然環境、産業、交通等における一般的共通性の視点を基に、見方・考え方を働かせ、関東地方を捉えさせる。その上で、人口の不均衡が見られる東京都都市圏をより多面的・多角的に捉え、地方的特殊性に気付かせる。



● 今回の授業モデルについて
災害から教訓を得て、それを生かした判断や行動がなされているかという観点で問い直していくことは非常に重要である。新型コロナウイルス感染症拡大からの教訓を生かし、持続可能な社会の在り方について考える素地として、本時のような社会認識の形成、考察型の授業は大変意義がある。

授業改善のポイント

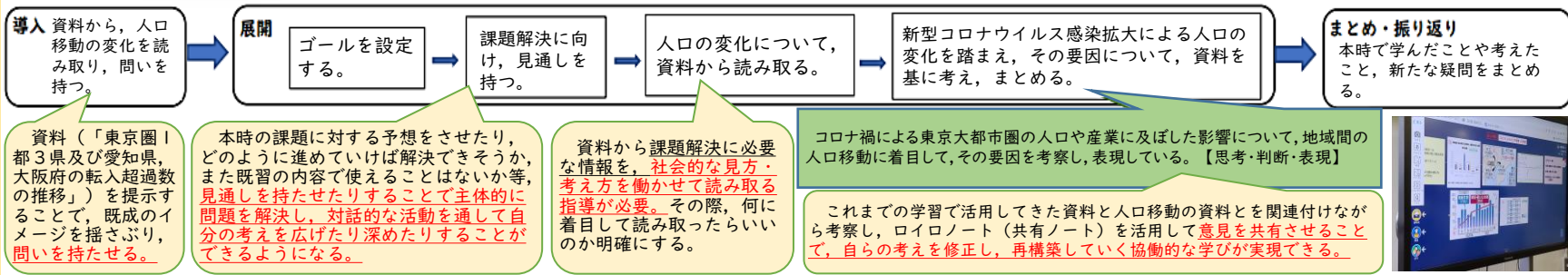
★ 資料の活用について
活用する資料の適切性や特性に留意する必要がある。
問いを生み出すための資料なのか、あるいは子供の思考を深めるための資料なのか、場面によつて資料の精選が必要である。



- 授業開発にあたって…授業者は次のことを具体的に考え、設定する必要がある。
 - ① どのような知識を習得させるのか。(知識目標)
 - ② ①を実現するために、子供の思考をどのように働かせるのか。(思考目標)
 - ③ ①・②を踏まえて学習者がもっと知りたい。考えたいと思うようになることはどのような事か。(態度目標)

● 社会問題を自分事にするとは…
問題について、「これはなぜだろう。」と誰かに何か言われるまでもなく、自分で問いがどんどん浮かんでくる状態、さらに「これについてもっと考えなくてはならない」という問題の重要性を理解したり、感じている状態が社会問題を自分事になっている状態ではないか。
社会問題を自分事にするために、子供がもつ問題意識を重視するものと外から意図的に教材を提示し、切実性を学習を通して捉えさせることを重視するものがあるが、この両方をバランスよくやっていくことがこれから求められるのではないか。

本時の目標
新型コロナウイルス感染症拡大による東京都都市圏の人口や産業に及ぼした影響について、資料を基に考察し、根拠を示して説明できる。



資料(「東京圏1都3県及び愛知県、大阪府の転入超過数の推移」)を提示することで、既成のイメージを揺さぶり、**問いを持たせる。**

本時の課題に対する予想をさせたり、どのように進めれば解決できそうか、また既習の内容で使えることはないか等、**見直しを持たせたりすることで主体的に問題を解決し、対話的な活動を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになる。**

資料から課題解決に必要な情報を、**社会的な見方・考え方を働かせて読み取る指導が必要。**その際、何に注目して読み取ったらいいのか明確にする。

コロナ禍による東京都都市圏の人口や産業に及ぼした影響について、地域間の人口移動に着目して、その要因を考察し、表現している。【思考・判断・表現】

これまでの学習で活用してきた資料と人口移動の資料とを関連付けながら考察し、**ロイノート(共有ノート)を活用して意見を共有させることで、自らの考えを修正し、再構築していく協働的な学びが実現できる。**

板書計画

単元を貫く課題 東京都都市圏はなぜ人口が集中し、今後どのように変化すると考えられるだろう。

11/16 関東地方④
ゴール
コロナショックは東京都都市圏の人口や産業にどのような影響を与えたのか説明する。

【予想】
・人口が減ったのでは？
・ものが売れなくなったのでは？
→第3次産業に影響？
・人の移動が減ったのでは？(昼夜人口に変化？)

【変化】
人口
・東京から人が流出している。
・周辺県への移住が多い。
→東京の人口が減少
産業
・テレワークによる在宅勤務が増加している。
・第3次産業が停滞している。

【変化の要因】
・感染リスクを減らすため、在宅勤務やオンライン授業等になった。
・コロナによって周辺県へ移住する人が増えた。
・収入が減ったことにより、東京に住むことができなくなった。
・産業の強みである第3次産業が、逆にコロナによって弱さが出た。

電子黒板でロイノートを共有

参加者より

- 世の中の社会問題をどのように自分事として考えさせられるかは資料の精選や出すタイミング等、どのように資料を生徒に触れさせるかによって大きく左右されることが分かった。
- 他校の先生との交流や井上先生の講話により、資料の活用や授業の作りなど、具体的に学ぶことができた。今後は単元をしっかり見直しした上で、授業の位置付けを明確にしながら、1時間の授業を考えていきたい。
- 新型コロナウイルス感染症拡大と産業を結びつけ、持続可能な社会を柱に据えた社会認識の形成が図れるような授業を考えていきたい。また、社会問題を自分事していくために、生徒たちが主体的に問いを持つことができるような教材や資料を提示し、学習を通して深い学びができるようにしていきたい。

今年度は日本の諸地域を大きな枠として捉え、他地域との比較と関連という視点を意識してきた。また、関東地方の学習においては、教科書の設定とは異なる「人口や都市・村落」を中核とした考察の仕方でも単元づくりを行った。

子供たちが自分事として関東地方の課題を解決していけるよう、課題の設定を検討したが、まだまだ不十分であったと感じた。また、資料を読み取るだけでなく、そこから何が分かるのかということまで追究することにおいても課題が見られた。

今後の地理的分野の学習において、資料の読み取り方等の指導もしつつ、その資料からどのような考察ができるのかということまでを常に意識した資料の精選や、見方・考え方の視点等を意識した単元構想をしていきたい。

授業者 高橋裕祐 教諭